



アイシン・エイ・ダブリュ様は、オートマチックトランスミッション(AT)、ハイブリッドシステム、カーナビゲーションシステムの開発、製造、販売を行う自動車関連メーカーです。

主力のATでは、世界中のカーメーカーに製品を納入し、世界シェアトップを誇ります。またカーナビゲーションにおいても、グローバルに顧客を持つトップクラスのメーカーです。

また、近年はハイブリッドシステムの開発にも力を入れ、2004年に生産を開始したFF車用に続き、2006年には世界初となるFR車用の生産を開始するなど、環境に優しい製品の開発にも取り組んでいます。



アイシン・エイ・ダブリュ株式会社
人材開発本部 総務部 総務グループ
寺田綾乃様にお話を伺いました。

データプロジェクター お客様事例 アイシン・エイ・ダブリュ株式会社様

VPL-FE40

製造

パソコン資料やDVD映像をデータプロジェクターで投影。
高解像度・高画質が、本来の色合いをそのまま再現

お客様のニーズ・課題

メイン会議室の設備を整えるにあたり、高解像度、高画質、高輝度など将来に渡って活用できる性能を持ち、コスト条件にかなう製品を求めていた。

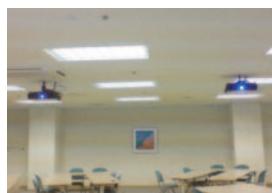
導入効果

パソコン資料やパソコンから再生するDVD映像なども、本来の色合いで再現。部屋の隅にいても、またビデオ会議を通して、資料がクリアに見える。

導入背景

重要な全会議の中心となる
メイン会議室の設備を整えたい。

今回データプロジェクターVPL-FE40を設置した会議室は、最大収容人数が150人を超える本社のメイン会議室です。このメイン会議室を含め、本社内の各会議室には従来よりプロジェクターが設置されていましたが、そのうちの1台が故障したことから新しいプロジェクターを導入することになりました。どうせならば、使用頻度が高く、重要な会議を開催するメイン会議室の設備を整えようということで、それまで設置していたプロジェクターを故障した部屋へ移動し、メイン会議室へ新しいプロジェクターを設置することにしました。



データプロジェクターを、2台並べて設置

選定理由

白色が白らしく見えるなど、
優れた性能とコスト面を評価。

プロジェクターは、それほど頻繁に取り替える機器ではありません。そこで将来的な利用方法も念頭において、高解像度や高画質、コストなどの要件をあげて選定に入りました。

数社の製品を比較検討した結果、ちょうどソニーから発売されたVPL-FE40が、SXGA+(1,400×1,050ピクセル)の高解像度や4000ルーメンの高輝度など、性能面でどこよりも優っていました。

最近では、色の効果まで考えて資料を作成する傾向があります。また、パソコンでDVDを再生し、それをプロジェクターで投影するような使い方も増えています。そのため、パソコン画面の色合いをそのまま投影できることが重要になるのです。従来のプロジェクターでは忠実な色再現が困難でしたので、せっかく作成した資料の効果が半減してしまい、苦情が寄せられることがありました。VPL-FE40は色合いがクリアに再現でき、特に白色が白らしく表示されることが一番の決め手になりました。また、色調整も細やかに出来るので2台並べて使用する当社にはぴったりだと判断し、コスト面もクリアしていたため、2007年3月に導入を決定しました。



実際よりも薄く見えるスタイル

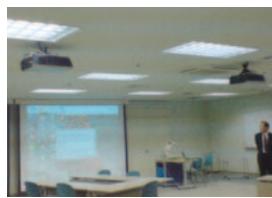


コード類が目立たないよう工夫されたデザイン

導入効果

ビデオ会議を通してもプロジェクターの投影映像がクリアに。

メイン会議室では、会議室の前面に150インチのスクリーンを2面配置し、1面にメインのパソコン資料を、もう1面にサブ資料をそれぞれ投影します。プレゼンターは2枚のスクリーンの間に立って、プレゼンテーションを進行するのです。さらに、その様子をビデオカメラで撮影し、ビデオ会議システムを通して他拠点にリアルタイムで中継します。



メイン会議室でのプレゼンテーションは、他拠点にも中継される

VPL-FE40導入後の最初の会議は、全社監査会議でした。以前のプロジェクターを使用していた時には、会議終了後「映りが悪くて資料が読み取れなかった」「色が悪い」など、必ずと言っていいほど他拠点からクレームが出ていました。今回はそのようなクレームの声がまったくあがりませんでしたので、クリアに伝わったのだと判断しています。また、メイン会議室にいた社員からは、「部屋の隅からでも資料がはっきり読み取れた」という意見や、「精密部品の資料でも、問題なく確認できる」などの評価をもらいました。



アイシン・エイ・ダブリュ様の主力製品。世界初FRB速ATも登場

今後の展望

増設決定。今後もタイミングを計って順次リニューアルの予定。

VPL-FE40は、すでに1台の追加導入が決定しています。現在、社内で使用している古いプロジェクターも、リニューアルするタイミングを計って順次変更していく予定です。その際に、求める性能とコストのバランスを図った上で、最適の選択をしていきたいと考えています。VPL-FE40も、当社にとってちょうどいいタイミングで発売されました。低成本で優れた製品が登場する時代になったことが、とても嬉しいですね。

データプロジェクターの商品情報やお客さま事例をご覧いただけます。www.sony.co.jp/VPL

ソニーマーケティング株式会社 〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18

記載の商品に関するお問い合わせは

ソニー業務用商品お客様ご相談センター ▶ ナビダイヤル  **0570-00-2288** (全国どこからでも市内料金で)
かけられます

携帯電話・PHS・一部のIP電話など、ナビダイヤルがご利用になれない場合: **0466-31-2588** FAX番号: **0466-31-2595**

受付時間: 月~金 9:00~18:00 (土日・祝日・年末年始を除く)

2007年7月現在